

施策の柱

1. 生きがいづくりの推進

国の評価区分
【大区分】 自立支援・介護予防・重度化防止
【中区分】 自立支援・介護予防・重度化防止

No.	施策	主な内容	目標		実績(見込含む)		R4 対比	評価及び課題	自己 評価
			R3	R4	R3	R4			
80	社会活動への参加推進	①老人クラブ数 ②地域ふれあいサロン数 ③老人クラブの参加率 ④地域ふれあいサロンの参加率	①25箇所 ②60箇所 ③7.5% ④9.2%	①26箇所 ②63箇所 ③7.8% ④9.7%	①21箇所 ②62箇所 ③6.1% ④8.0%	①21箇所 ②60箇所 ③5.4% ④7.7%	81% 95% 69% 79%	老人クラブは5クラブ減となり参加率も大きく減少した。3年ぶりにリーダー研修会を行い円滑な運営などについて情報交換を行った。 サロンについては再開と自粛を繰り返してきたが、人と人とのつながりを絶ってはいけないとの思いから、コロナ禍でも再開に踏み切ったサロンも増えてきた。 老人クラブやサロンがコロナ禍における活動に制約を受ける中、会員や事業参加者の減少に歯止めをかけるため、今後も市社協と連携対応を行っていく。	○
81	社会活動への参加推進	社会参加、地域での活動	高齢者のボランティア活動を支援する。 高齢者が生涯学び続けることができる環境を提供する。		認知症や体操サポーターの養成、サロンボランティア養成講座等を開催し、高齢者の地域活動への参加促進を図った。			講座受講後は活動の場(機会)を提供していく必要がある。社協、包括など関係機関と連携を図り、その後のボランティア活動を支援していく必要がある。	◎
81	社会活動への参加推進	社会福祉協議会との連携	社会福祉協議会と連携し、地域における福祉活動の充実を図り、高齢者の社会活動への参加促進を支援する。		高齢者団体の支援及び、関連事業を連携して実施した。			新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者の活動については自粛や制限が多くなった。社会活動への参加促進を図るためには、安全かつ安心して活動ができるよう情報提供や活動の工夫についての助言等が必要となり、社協との連携強化が求められる。	◎

No.	施策	主な内容	目標		実績(見込含む)		R4 対比	評価及び課題	自己 評価
			R3	R4	R3	R4			
82	就業機会の確保	シルバー人材センターの会員数	391人	402人	357人	360人	90%	下野市シルバー人材センターにおいては、前年度に引き続き女性会員獲得に向けた講習会、また、会員の健康増進事業としてウォーキングを実施した。 新たな広報活動として、事務所管理棟に横断幕を掲げ、市内16箇所にミニ看板を設置した。また、センター公用車にマグネットシートを貼るなどの啓発活動を行った。	◎
82	学習機会の確保	学習機会の確保	市民の多様な学習機会を提供するため、講座の情報提供を行い、学習環境の整備を図ります。		生涯学習情報誌「エール」に講座情報を掲載し情報発信を行った。 通いの場での講座開催に取り組んだ。 公民館と連携し公民館講座を開催した。			地域包括支援センターと連携して、まちづくりリクエスト講座により権利擁護に関する講座を実施することができた。通いの場においても権利擁護に関する講座を開催できている。今後も広く講座情報の周知を図っていく必要がある。	◎